



かぜくも

いわき養護学校
地域支援センター通信 No. 7
H28. 7. 4発行

～「風をよみ・チームでつなく」センター～



今年度、当センターは開所3年目を迎えますが、いわき地区の特別支援教育の充実を目指し、チーム一丸となり取り組んでいきますので御理解と御協力をお願いいたします。

さて、この4月より障害者差別解消法が施行されました。この法律は障がいのある方に対して不当な差別的取扱いを禁止し、合理的配慮の提供を求めています。このような社会全体に求められている昨今にあって、これまで特別支援学校が培ってきた合理的配慮に関するノウハウは数多く蓄積されていると言っても過言ではありません。いわき地区においても障がいのある子どもたちの合理的配慮の提供に向けた人的・物的な環境整備は加速化していくものと考えています。当センターとしましては、地域全体を視野に入れた支援を果たしていかなければならないと考えています。

また、当センターでは、年々地域からの支援が高まってきている早期教育（「かぜくもひろば」「かぜくも教室」）や幼・保・小・中・高校等の支援には、特別支援教育に経験豊富なスタッフがチームで対応し、地域へつなく支援にあたっています。障がいのある子どもたちが地域で育ち・学び・生活していけるよう、地域・人が育つ支援に重点的に取り組んでいきます。

いわき養護学校長 齋藤秀美



就学前のお子さんの かぜくもひろば



6月15日(水)に第1回かぜくもひろばが開催され、就学前のお子さんと保護者の方10組12名が参加しました。今回参加していただいたおさんは、6名が昨年からの継続の方で、6名は初めて参加となるおさんでした。「お集まり会」では、テレビ画面に自分の顔が写り、名前が呼ばれると「はい」と返事をしたり、先生とタッチしたり上手にできていました。「手遊び」ではお母さんと向かい合い、ちょちょとくすぐられて、ふれあい遊びを楽しみました。参加して下さった保護者の方からは、「何度も参加させてもらっているのだから、遊び方をわかってきたように思います。」「関わり方、育て方、いつも悩んだり不安になったりするのですが、この時間は気分転換できて良かったです。」「子どもの気になる点など相談できて良かったです。」という感想をいただきました。保護者の方にはお子さんの活動に参加する姿を見ていただき、新たな発見をしていただければと思います。また、気になることや悩んでいることを担当スタッフや他の保護者の方と話ができるそんな「かぜくもひろば」になればと考えております。



就学前の保護者さんの学校見学会

5、6月に学校見学会が行われ、未就学のお子さん（年少・年中・年長）の保護者さん、療育機関の職員さん、相双地区の保健師さん等、合計90名の方が来校されました。本校概要の説明と、地域支援センター「かぜくも」についての説明の後、小学部から順番に授業を参観し、どんな学習をしているのか、どんな教材があるのか、先生方はどんなかかわりをしているのか等、本校の教育活動を熱心に見学していただきました。



こんなとき、どうする？Q&A



Q；集団での学習が苦手です。どのような対応をすればよいのでしょうか？

A；家庭生活とは違って幼稚園や学校は、集団での学習場面が多くなります。運動会や学習発表会など行事では、教師側がどうしても参加させたいという場面も出てきていませんか。

さて、「集団での学習が苦手」とありますが、「集団での学習」の場面をもう1度洗い出してみます。

1番目に「苦手」な行動を示すときの ①集団の大きさ、②集団のメンバー、③集団の開始時間帯、④集団での学習時間、⑤学習の質 etc. を担任だけでなく複数の教師で項目を分けて考えます。

2番目に「苦手でない集団での学習」を1番目の①～⑤の手順で考えてみます。

それらを比較して、「苦手」なのは、どのような状況や学習内容なのか「背景や要因」を明らかにすることで教師のかかわりの糸口が見えてくると思います。（次号に続く） 本校教頭 杉山

幼・保・小・中・高校の先生方へ

授業公開・研究会について < お詫びと訂正 >

平成28年度 地域支援センター発行のリーフレットに記載で7月15日(金)に予定していました「福島大学 森本明先生の講演会」は行わなくなりました。各教科の授業公開と研究会は下記の日程で予定しています。ぜひ、おいで下さい。

保健体育	9月15日(木)	算数・数学	11月16日(水)
国語	11月29日(火)	音楽	12月5日(月)



授業公開等の案内は後日ホームページでお知らせしますので、ご覧ください。

セミナーのご案内

本校会場で16時から行います。先生方のご参加をお待ちしています。

総合教育センターのホームページ(平成26.27年調査研究)からもご覧いただけます。

7月20日(水)	「簡単教材作り」「☆本(ほしぼん)教科書を見てみよう」
8月26日(金)	「障害者差別解消法について知ろう」
11月22日(火)	「児童生徒の行動理解と対応」

お問い合わせ (☎34-3806)



かぜくも

いわき養護学校
地域支援センター通信 No. 8

お母さんのための **かぜくも教室** を行いました。

6月29日(水)に第1回かぜくも教室「先輩お母さんの話を聞こう」、9月7日に第2回かぜくも教室「つなげよう支援の輪、サポートブック」が行われ、未就学のお子さんがある保護者さんたちが参加して下さいました。第1回は本校中学部に在籍する生徒の保護者であり、本校の手をつなぐ育成会会長の園邊美千代さんが講師となり、自分のお子さんが生まれてから、中学生になるまでにあった悲しかったこと、うれしかったこと、母親として頑張ってきたことなどを分かりやすくお話しいただきました。また、偏食、トイレ、ことば…などの参加者の心配ごとに、どのように対応してきたか丁寧にお答えいただきました。参加された方からは、「とても勉強になりました。講師の方の話も、参加者さんの話もとても勉強になり、参加して良かったです。このつながりを大切にしたいと思いました。」という感想をいただきました。



第2回のかぜくも教室は、「サポートブックを書こう」というテーマで、未就学のお子さんの保護者さん9名が参加して下さいました。参加した保護者の方からは、「どのように記入して良いのか分からなかったが、具体的に記入できるようになりました。」「改めてサポートブックの大切さがわかり、書く意欲がでてきました。」などのご意見をいただきました。

かぜくも教室は、未就学児をお持ちの保護者さん対象の勉強会(10:00~11:30)です。今後は12/16(金)「いいところを見つけよう、ペアレントトレーニング」を開催予定です。お子さんの見方をちょっと変えて、たくさん良いところを見つけましょう。

参加を希望される方は、地域支援センターかぜくも(☎34-3806)までご連絡ください。

～出かける支援～

本校では、市内の幼稚園・保育所・小学校・中学校の先生方から、発達に心配のあるお子さんに関する指導や支援についての相談に応じています。出かける支援では、各学校での様子を参観させていただき、担任の先生やコーディネーターの先生と共に、お子さんの支援について一緒に考える取り組みをしています。

● これまでの出かける支援の相談内容 ●

- ・他の幼児と上手にかかわれず、押しついたりひっかいたりしてしまう幼児への支援。(幼稚園)
- ・発音が不明瞭な児童への支援。(小学校)
- ・身の回りの整理整頓ができず、周囲の児童と協調性が取れない児童への支援。(小学校)
- ・思い通りにならないとトラブルを起こしてしまう児童への支援。(小学校)
- ・注意をしてもすぐに忘れてしまい、同じことを繰り返してしまう児童への支援。(小学校)
- ・個別の支援計画と個別の指導計画の作成に向けての支援。(中学校)
- ・学習面で遅れが目立つ生徒への支援。(中学校)

お気軽に問い合わせください。(☎34-3806)

小中学校の先生方のための ミニセミナー



今年度はこれまでに2回のミニセミナーを開催しました。1回目は「☆本(ほしぼん)教科書を見てみよう」と「簡単な教材を作ってみよう～作品展に向けて～」をテーマに本校の教諭を講師に行いました。

2回目は「障害者差別解消法について知ろう」というテーマでいわき教育事務所の菅野和彦指導主事を外部講師として迎え、市内の小中学校の先生方や相談事業所の方々、本校職員と一緒に学びました。障害者差別解消法は平成28年4月から施行になり、障害の有無によって分け隔てなく、共生する社会の実現に向けていくことを目的とすると説明していただきました。障害のあるお子さんが教育を受けるための「合理的配慮」は、一人一人の状態やニーズに応じて決定され、お子さんによって必要な配慮を考え、可能な限り大きな負担にならない範囲で話し合い、定期的な見直しをしていく。その内容は、個別の教育支援計画や個別の指導計画にも活用され、今後、期待をしていきたいとのことでした。

★ 本校では **こんな合理的配慮** をしています。 ★

時間を視覚化する支援

自発的行動を促す視覚支援



タイムタイマーは、視覚的に時間の経過が分かり、見通しをもった行動が期待できます。



予定表の中に、トイレに行く時間を示すことで、自分から確認してトイレに行けるようになります。



下校の方法について、朝のうちに確認し、自分でカードを選んで貼ります。下校後まで見通して生活することができます。



いわき市の総合教育センターホームページにも参考となる事例が載っています。また、本校で実践している内容についても情報を提供します。お気軽にお問い合わせください。(☎34-3806)



学校へ行こう週間

11月1日(火)2日(水)の2日間、学校へ行こう週間(学校公開)が行われ、多くの方々が来校してくださいました。地域支援センターでは、就学前の保護者の方を対象に、「かぜくもひろば」「かぜくも教室」「かぜくも相談室」など、早期からの支援についてお話をさせていただきました。校内見学では、小学部の登校後の様子や各教科の学習に取り組む様子、中学部では作業学習の様子を参観していただきました。





かぜくも

いわき養護学校
地域支援センター通信 No. 9
H29.3.1 発行

小中学校の先生のための ミニセミナー



ミニセミナーとは、地域の先生方が本校に来校して頂き、一緒に勉強をする会です。今年度は「教材作りと ☆本(ほしぼん)について」「障害者差別解消法について知ろう」「児童生徒の行動の理解と対応」「ICTの活用」「いわき市の福祉サービスを知ろう」というテーマで、5回開催しました。

第3回の「児童生徒の行動の理解と対応」では、「子供たちが不適応行動を起こしているのはなぜだろう。」「子供たちは何に困っているのだろう。」と、子どもの困り感に寄り添い、「子どもを見る視点を変えることが行動理解につながる。そうすることで教師側のアプローチの仕方も変わってくる。」というお話がありました。本校の古川教諭は、これまで、小・中学校への「巡回相談」や「出かける支援」の経験から、「子供たちは困っている。分かってほしい。」と伝え、参加された特別支援学級の小学校の先生方からも賛同の声が聞かれました。また、通常の学級の先生方にもお話を聞いてもらいたい、という先生方からの感想が聞かれました。

第4回ではアプリ「Book Creator」を使って教材作りを行いました。無料でインストールできるアプリを使い、画像の取り込みや文字の入力、さらに音声を入れて、デジタルの絵本教材を完成させました。参加した小学校の先生方はタブレット操作に苦戦しながら、絵本教材作りに挑戦していました。また、本校の須賀教諭から文科省は2011年に「教育の情報化ビジョン」を発表し、2020年までにタブレット端末を導入したICT授業を実現する方向である。という情報も伝えていただき、本校職員も含め先生方から驚きの声が聞かれました。

第5回の「いわき市の福祉サービスを知ろう」では、子どもの家保育園の阿邊智先生を講師に迎え、いわき市の放課後等デイサービスやサービス利用開始までの流れ、サービスを利用する時はどこに相談をしたら良いかなど、詳しく説明していただきました。地域の小学校の先生方は、「福祉サービス等の話を聞く機会がないので、教師として市内の福祉サービスを知っておく必要性を感じた。」と感想を頂きました。

今年度のミニセミナーは、小学校の先生方に多数参加していただきました。ありがとうございました。

次年度も地域の先生方のニーズに応えられるよう企画運営してまいりますので、ぜひご参加ください！

「児童生徒の行動の理解と対応」



「すぐに使えるICTの教材作り～Book Creatorを使って」



「いわき市の福祉サービスを知ろう」



幼・保・小中高の先生方へ

気づきを支援へ

いわきサポートブック



就学前から小・中・高校・成人にわたるまで、成長や支援の状況を記録し、まとめていくものが「いわきサポートブック」です。平成26年の秋にいわき市版が完成し、市のホームページからどなたでもダウンロードができます。保護者さんが作成するもので、ライフステージごとに新しい関係者にお子さんを把握してもらうために有効なツールと言えます。本校でも平成28年度の小学部入学児童からは全員がサポートブックを持ち入学しています。地域の小・中学校でも今後、相談や懇談等で保護者さんが持参してくることが多くなるかと思えます。お子さんとかかわる際に配慮することや支援の仕方などが書かれていますので、ぜひ活用をしてみてください。また、各学校とも「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」を「学校」の欄に綴るようになります。本校でも独自の様式をホームページにアップしました。どのように活用するか等、詳細について知りたい方は、お気軽にお問い合わせください。

おかあさんのための **かぜくも教室**



第4回目のかぜくも教室は「いいところを見つけよう」というテーマで、本校の上野教諭が講師をつとめ、未就学のお子さんの保護者さん10名が参加してくださいました。「お子さんのいいところに目を向けてほめていきましょう」という視点がベースにあり、具体的には、「朝、起きられたね!」「靴下がはけたね!」など、当たり前のことをほめてお子さんやお子さんの行動をとにかくほめてみよう、という話でした。

また、「お子さんの行動をリフレーミングしてみよう」という話がありました。リフレーミングとは「見方を変える」ということです。(例:「がんこ」→「意志が強い」、「落ち着きがない」→「活発である」など)リフレーミングすることで、行動をポジティブにとらえ、お互いにイライラせずにかかわることができるのではとのことでした。



こんなときどうする? Q&A



入学や進学、進級を控えたこの時期、子どもも保護者も気持ちが揺らぎますね。担任の教師も同様です。次の環境に不応を起ささないような引き継ぎをしたいと考えます。【担任が替わったことに知らなかった】ということを出して別に引き継ぐことも新しい担任としては助かりますね。また、引き継ぎをどんなに慎重に行ったとしても、【最初から、前担当者と同じにできるということはない】と、腹をくくって変化を成長のチェック時期ととらえてみるのはいかがでしょうか。新しい環境で生まれた課題を以前のものと比較していけると、次の指導の手がかりが出てくると思います。マイナス面だけに目を向けずに、教師としては、逆転の発想を持ちたいものです。

さて、前々号で【集団への参加】について記載しましたが、3学期に入り、やっと集団にも慣れたと実感している方、やはり【集団は無理】と感じている方それぞれだと思います。ここで伝えたいのは、集団がそのお子さんにとってどんな必要性があるのかを考えることが大切ではないかということです。【集団が大前提】でも【個別でなくてはならない】と、教師の思い込みで極端にとらえていないか振り返ってみましょう。子どもの成長や学びには、様々な環境が適度にバランス良く整えられていくように配慮することが肝心です。 本校教頭 杉山

今年度の **地域支援センター**の活動状況

○小中高の先生方の研修支援 (参加者: 48名)

- ・ミニセミナー(地域の小学校、中学校)



○早期教育の充実(96件)

- ・かぜくもひろば 全7回 64名
- ・かぜくも教室 全4回 32名



○かぜくも相談 小・中・高 (36件)

- ・出かける支援・来校支援・電話による支援



○かぜくも相談 就学前(35件)

- ・来校支援・電話による支援

○就学前学校見学・学校公開 (116名)

みんなで **支え合う地域支援センター**をめざして

今年度もいわき養護学校の「地域支援センターかぜくも」は、保護者の方々や地域のお子さんが通う学校の先生方とともに、お子さんの成長や養育について一緒に考えてまいりました。

今年度は就学前のお子さんのための「かぜくもひろば」には毎回10名以上の来校があり、36名の幼児の相談がありました。参加者の半数は4月から地域の小学校へ入学をするお子さんです。いわき市では「いわきっ子入学支援システム」が始まりましたが、本校でも相談やかぜくもひろばに参加し、地域の小学校へ入学するお子さんの入学後のアフターフォローを心がけ、小学校から依頼や要請があれば「出かける支援」として、先生方と一緒にお子さんの支援について考えていきたいと思ひます。

4月より本校の校名が「いわき支援学校」に変わります。次年度も「地域支援センターかぜくも」をどうぞよろしくお願いいたします。

いわき養護学校 地域支援センター 主任 曾川 清恵